



いのち、くらしを守る対策を

野原和夫

町長 国の動向等も踏まえ対応する



問 新型コロナウイルス感染症の今後の町民への周知について。
答 次の感染拡大期に向けた備えを進めることが重要である。3回目のワクチン接種については、接種の対象者に適切な時期に必要な

情報を伝えられるよう準備を進めている。
問 「学ぶ権利」が保障される学校教育のためにもPCR検査の取り組みを。
答 頻度や効果面について十分な検討が必要である。国の動向等も踏まえ対応し

ていく。
問 憲法25条に基づく福祉行政、生活保護制度の利用についての職員の対応は。
答 生活保護制度の研修を積極的に受け、窓口での相談受付や申請支援等、福祉事務所と連携・協力し、迅

速な対応に努めている。
問 土砂災害警戒区域等指定箇所地域の対応策は。
答 土砂災害警戒区域等が町内に258箇所指定されている。土砂災害による人的被害を発生させないため、早めに避難行動がとれるよう、玉川公民館を自主避難所として開設して、町民への避難の呼びかけを行っている。

子どもたちのスケートボード練習場について

長島 金作

教育長 公共施設の駐車場は車の出入が多いのでスケボー利用者の安全のため、許可できない



問 専用練習場を新設する考えはないか。
答 公費を投じてスケートボード専用練習場を町が整備する段階ではない。更なる盛り上がりを見せてきた場合には、競技者の方々と一緒に考えていく。

明覚駅に南北連絡通路の設置を
問 合併してから15年。南北連絡通路だけでも出来ないか。
答 費用対効果を考えると現状では大変難しい、駅周

辺の賑わいや活性化が図られた時点で検討したい。
寄贈者に対する感謝の表現について
問 永く住民に知らせるために石碑等を考えてはどう

か。
答 お礼状の送付をもって代えさせていただいている。町の広報に掲載し町民にお知らせしている。



子育て支援の拡充を

神山 俊

町長 何をするのが最も重要なのか議論を深めていきたい



左記の点について導入すべきと考えるが、伺う。
問 健診等に利用するタクシー券(健診回数分)か1回あたり2,000円を助成するタクシー利用制度。
答 タクシー券の配布ではなく、別の方法で妊娠期の

支援について検討していく。
問 パパ・ママリフレッシュ切符の土日利用、幼保に通っていてもチケット交付発行(16時間)。
答 休日は子育て支援センターが休館のため、現行のとおり平日のみとし、幼保

の登園時間と重なるのでチケットの発行は考えていない。
問 ファミリーサポートセンター、一時保育の利用の時間の拡大と自己負担額の引き下げ。
答 既に朝早くから夜遅く

まで利用できる、これ以上の拡大はお子さんの負担を考慮し考えていない。利用料金は近隣の自治体の状況からも、適正と考えている。
問 インフルエンザワクチンの幼児・小学生の無償化(任意)。
答 今後の国等の動向を注視していく。
問 児童館、児童遊園の創設。
答 既存の施設を有効的に活用していきたい。

農林業の活性化について

岡野 茂

町長 林業後継者の育成の検討や新規就農者の増員に取り組む



問 林業従事者の増員計画は。
答 令和2年度末は13名であり5年間で3名が減となった。面積の7割が森林である本町は、若い林業後継者の育成が課題で、緑の雇用創出事業などにより育

成を検討していく。
問 新規就農者の増員計画は。
答 町では、国、県の施策と連携し、農業後継者不足の解消や、新たな遊休農地の発生防止の観点から新規就農者の増員に取り組んで

いく。
問 ときがわブランド生産物数は。
答 平成27年度末の目標指標が7品目となっており、内訳は、福米みかん、原木きのこ、青なす、のらぼう菜、ゆず、ポロタン、エゴ

マとなる。
町では、ときがわブランドを目指し、栽培の普及や研修など生産者支援に努めているが、栽培に不測の労働力がかかることや、収益性などの問題から、特産品につながっていない物もある。地域の方や団体と連携し、「キウイフルーツ」の栽培や、「純ときがわ産手作りみそ」の加工に取り組む、今後「ときがわブランド生産物」に加えられるよう、支援していく。



ときがわ産のゆず